

平成31年
(2019年)
2月28日

病害虫発生予報 3月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬の誤飲に注意！

～農薬をペットボトル等に移し替えてはダメ！～

< 目 次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	1
促成トマト・促成キュウリ：灰色かび病	2
促成キュウリ：褐斑病	2

【その他の病害虫】

イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス	3
----------------------------------	---

II. 今月の気象予報 4

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>

<HP QRコード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率（本年値 6.7%，平年値 16.8%）は平年よりやや低く、発生地点率（本年値 50%，平年値 60%）は平年並～やや低い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病度*（本年値 9.0，平年値 3.3）は平年より高く、発生地点率（本年値 50%，平年値 49%）は平年並である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を導入している場合は、影響が小さい薬剤を選択する。

促成トマト・促成キュウリ

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在，促成トマトにおける発病株率（本年値 1.3%，平年値 2.4%），発生地点率（本年値 22%，平年値 24%）ともに平年並である。
- ② 2月下旬現在，促成キュウリにおける発病株率（本年値 0%，平年値 0.7%），発生地点率（本年値 0%，平年値 11%）ともに平年並である。
- ③ 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

促成キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在，一部圃場において発生を認め，発病葉率（本年値 4.4%，平年値 2.2%）は平年よりやや高く，発生地点率（本年値 9%，平年値 15%）は平年並である。
- ② 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① まん延すると防除が困難となるため，発生の少ないうちに防除を徹底する。また，収穫終期は株の勢いが衰え，発生が増加する傾向にあるため草勢の維持に努める。
- ② 多湿条件で発生しやすいため，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ③ 薬剤散布は，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。
	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の気温は平年より高く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
促成・半促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の気温は平年より高く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，促成ピーマンでは平年よりやや少ない発生であり，半促成ピーマンでは平年並の発生である。
促成キュウリ	アザミウマ類	発生量：平年並	2月下旬現在，ミナミキイロアザミウマは平年並～やや多い発生であり，ミカンキイロアザミウマは平年並～やや少ない発生である。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病		
春レタス	腐敗病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	菌核病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 3月2日から4月1日)

気象庁(2月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 3月2日(土曜日)から3月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 3月9日(土曜日)から3月15日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 3月16日(土曜日)から3月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成30年4月26日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。